サステナビリティマネジメント

当社はデクセリアルズらしいサステナビリティを追求し、豊かで効率的な社会実現への貢献と自社の持続的成長と企業価値の向上を目指しています。

担当役員メッセージ

執行役員
サステナビリティ推進本部長
山岸 向児

マテリアリティ「技術」と「人財」を起点に“Smart World”を実現する

「デクセリアルズにおけるサステナビリティは、パーパスそのもの」。これが当社の経営層による議論で収れんした結論です。

当社のパーパスには「現在形」と「未来形」の両面で読み取れる要素があり、この未来形の側面すなわち「ありたい姿」においてサステナビリティ視点が組み込まれています。具体的に申しますと、デジタル・テクノロジーが進化していく未来社会。これが現代よりもさらに効率的で豊かな社会形成として求められる姿ととらえて、その領域こそ当社がフォーカスして企業価値を発揮すべき方向性としました（ワンフレーズで“Smart World”とイメージ）。

そのパーパスを実現していくうえで、当社のビジネスモデルを強力に推進しながら事業ポートフォリオを拡大していく。その推進力となるのがマテリアリティ「技術」と「人財」です。この技術と人の「当社ならでは」の要素を鮮明にして、今回の「価値創造プロセス」を表現しています。

また、この価値創造プロセスを不断に機能させていく過程は「強みの発揮」「挑戦」「変革」「創出」などさまざまな試行錯誤を繰り返してこそ、実現されていくものと考えており、この姿の概略を示しています（右下の図参照）。

経済的価値、社会的価値を両立しながら持続的成長と企業価値向上を果たす

次にサステナビリティ推進の運営側面としては、従前のCSR方針を抜本的に更新しサステナビリティポリシーとして設定しました。これは、当社パーパス実現に向けて「事業を通した経済的価値、社会的価値の創出」をしていくことを骨子として、マテリアリティを訴求軸にしたこと、および社会的な要請事項に対する責務（潜在的経営リスク）としてESG重点課題を特定する2段階で構成しました。

P.56 マテリアリティとESG重点課題

従前のCSR方針の要素は当社の行動規範等に盛り込まれており、今回のESG重点課題を中心にサステナビリティポリシーに包含する形としていることも申し添えます。

P.55 サステナビリティポリシー

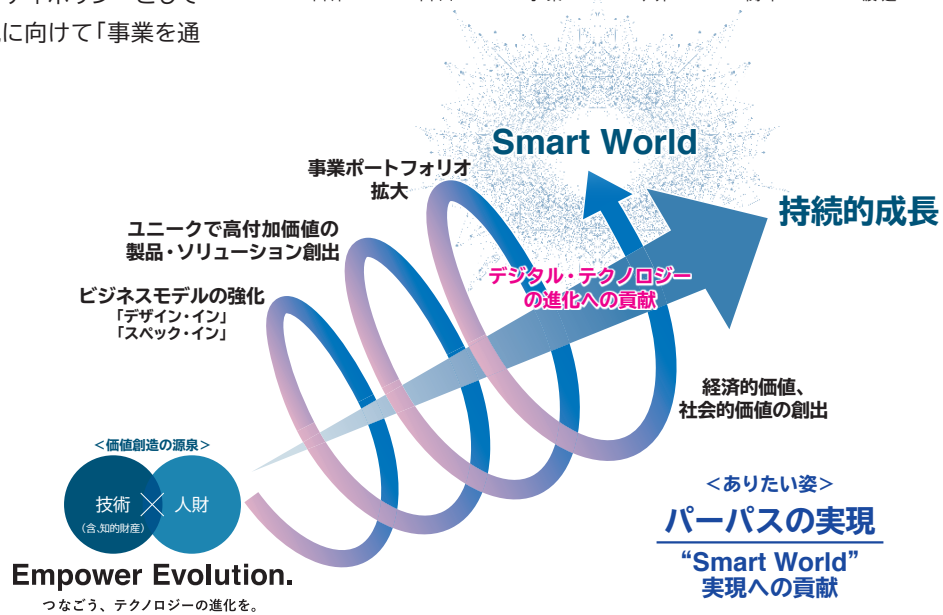
また、この方針に同期して中期経営計画2028『進化の実現』（以下、新中計）においてサステナビリティ戦略目標も追加し、経営コミットメントとしてフォローアップも行っていきます。

P.83 業績連動報酬

こういったサステナビリティ経営の骨子固め、つまり企業としての「旗揚げ」フェーズを終え、いよいよ「実践」のフェーズです。これを新中計の実行とともに示していく所存です。パーパスの軸足を持ち、『進化の実現』を果たしていきます。

サステナビリティ企画推進担当チーム

山岸　山田　小薬　今井　関本　渡邊



サステナビリティ推進 TOPICS

当社は、サステナビリティポリシーを定め、持続的成長と企業価値の向上に向けた全社の重要課題やESG視点での重点課題を抽出し、部門横断的な推進体制を構築し取り組んでいます。

デクセリアルズグループ　サステナビリティポリシー

デクセリアルズグループでは、社会の効率化を支えるデジタル・テクノロジーの進化に不可欠な材料・デバイス・ソリューションを提供し、社会課題の解決を通じて事業の拡大と持続可能な社会の実現に貢献するという、社会における私たちの存在意義（パーパス）を定義しています。
このパーパスの実現に向け、経済的価値と社会的価値を両立させ、持続的成長と企業価値の向上を果たし続けることこそが、デクセリアルズが目指すサステナビリティの本質であると考えています。

1. 事業を通じた価値の創造

私たちは、企業ビジョン「Value Matters」を根源として、経済的価値と社会的価値を両立する、テクノロジーの進化に欠かせないユニークで高付加価値の製品・ソリューションを提供し続けることで、豊かで効率的な社会実現への貢献を目指していきます。

そのために、私たちの強みであるビジネスモデルと価値創出の源泉である、様々な技術を掛け合わせて、今までになかったような製品・ソリューションを開発する「技術」と新しい価値を創出する「人財」の強化を進めます。

2. 価値創造を支える礎の構築

私たちは、事業活動を通じた価値の創造を支え、潜在的経営リスクを低減することを目的として、ESG重点課題に真摯に取り組み、持続可能な社会実現への貢献と企業価値の向上を目指していきます。

デクセリアルズグループ行動規範

1. 基本方針
① 経営理念の実行　② 法令・規定の遵守
③ ステークホルダーとの関係
④ 社内通報の活用

2. 誠実公正な事業活動
① 顧客・取引先との信頼関係
② 製品の安全　③ 公正な競争
④ 公正な調達活動　⑤ 輸出入法規の遵守
⑥ 贈答・接待の制限　⑦ 記録および報告
⑧ 個人的利益相反の禁止

3. 健全な職場環境
① 自己実現の職場環境　② 雇用の機会均等
③ 健全な労働　④ ハラスメントの禁止

4. 資産・情報管理
① 会社資産の私的使用の禁止
② 知的財産　③ 機密情報の管理
④ インサイダー取引の禁止
⑤ 個人情報　⑥ メディアとの関係

5. よき企業市民として
① 環境保全　② 化学物質管理
③ 地域との共存　④ 安全防災への取組み
⑤ 反社会的勢力への対応

デクセリアルズグループ行動規範
詳細はウェブサイトをご覧ください

デクセリアルズのマテリアリティとESG重点課題

ポジティブインパクトの増大（価値提供）

マテリアリティの取り組み

ビジネスモデルの強化（テクノロジーの進化になくてはならない存在であり続ける）ための重要課題

技術
- ▶ 技術戦略 →P.44
- ▶ イノベーション →P.46
- ▶ 知的財産の活用による持続的な成長の実現 →P.48

×

人財
- ▶ 人材戦略 →P.50
- ▶ 持続的な価値創出のための人事制度 →P.66
- ▶ 人材育成 →P.67

ESG 重点課題の取り組み

企業活動全体で社会や事業に与えるインパクトを踏まえた非財務の重要課題
（「なくてはならない存在」として、ステークホルダーからの信用・信頼を獲得し続けるため重要基盤課題）

E：環境
- 気候変動への対応
  CO_2 排出量の削減
- 資源循環
  廃棄物削減と資源の効率的利用
- 汚染防止
  環境インシデント削減

S：社会
- 多様な人財の活躍推進と国際的な人権原則の遵守
  女性管理職比率向上、人権啓発と人権デューディリジェンスの推進
- 社員の健康と安全
  健康経営、労働安全強化
- 製品品質
  製品品質の維持・向上

G：ガバナンス
- コーポレート・ガバナンス
  経営体制の維持・向上、実効性・透明性の高いコーポレート・ガバナンスの進化
- コンプライアンス
  法令遵守・行動規範の浸透
- リスクへの対応
  情報セキュリティ、BCP の強化
- サプライチェーン
  サプライチェーンマネジメント

ネガティブインパクトの抑止（リスクの低減）

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティ（「技術」と「人財」）は、取締役会メンバーで「VUCA時代における当社らしいサステナビリティ経営」をテーマに議論を重ね、当社が経済的価値と社会的価値を同期しつつ、豊かで効率的な社会の実現に貢献していくための重要課題として特定しました。

また、中期経営計画2028『進化の実現』（以下、新中計）の基本方針の一つ「経営基盤の進化」にも、マテリアリティを反映し、サステナビリティ戦略目標（「技術」と「人財」に対する重要指標）を定め運用をスタートしました。

将来に向けた「技術」と「人財」への投資を強化し、技術とそれを支える人材で差異化を図れる会社へ進化し、さらなる成長と企業価値向上に向け取り組んでまいります。

マテリアリティ 特定プロセス

Step 1

「VUCA時代におけるデクセリアルズらしいサステナビリティ経営」をテーマとした議論を取締役会メンバー（含、すべての社外取締役）で実施。（2022年度）

（概略）
- ◆未来に向けたより多くの社会課題解決には、デジタル・テクノロジーの進化が欠かせないこと
- ◆デジタル化の進む社会において、世の中になくてはならない、他社に真似できない材料・デバイスを生み出し、経済的価値と社会的価値を同期させつつ、豊かで効率的な社会の実現に貢献することが当社の存在意義であること
- ◆そのために、企業ビジョン「Value Matters」を根源としたビジネスモデル（＝当社の強み）の強化が必須であること

Step 2

さらに深掘りし、ビジネスモデルの強化と事業継続のための最重要課題を上記同様のメンバーで議論。
価値を創出し続けるための源泉として「技術」と「人財」に特定。中長期的なマテリアリティとして合意。

（結論）
- ◆将来の社会課題解決に向け当社が貢献できる事業領域を特定するなかで、必要な技術を獲得し、そこから新たな価値を創出する人材の強化こそが、当社の持続的な成長と企業価値向上の実現に向け最も重要な課題であること

Step 3

新中計においても「技術」と「人財」を重要課題、非財務投資対象として反映。
「サステナビリティ戦略目標」を含め、取締役会で決定。また、役員報酬制度の見直しを行い、役員の業績連動報酬の指標の一つとして「サステナビリティ戦略目標」を採用。

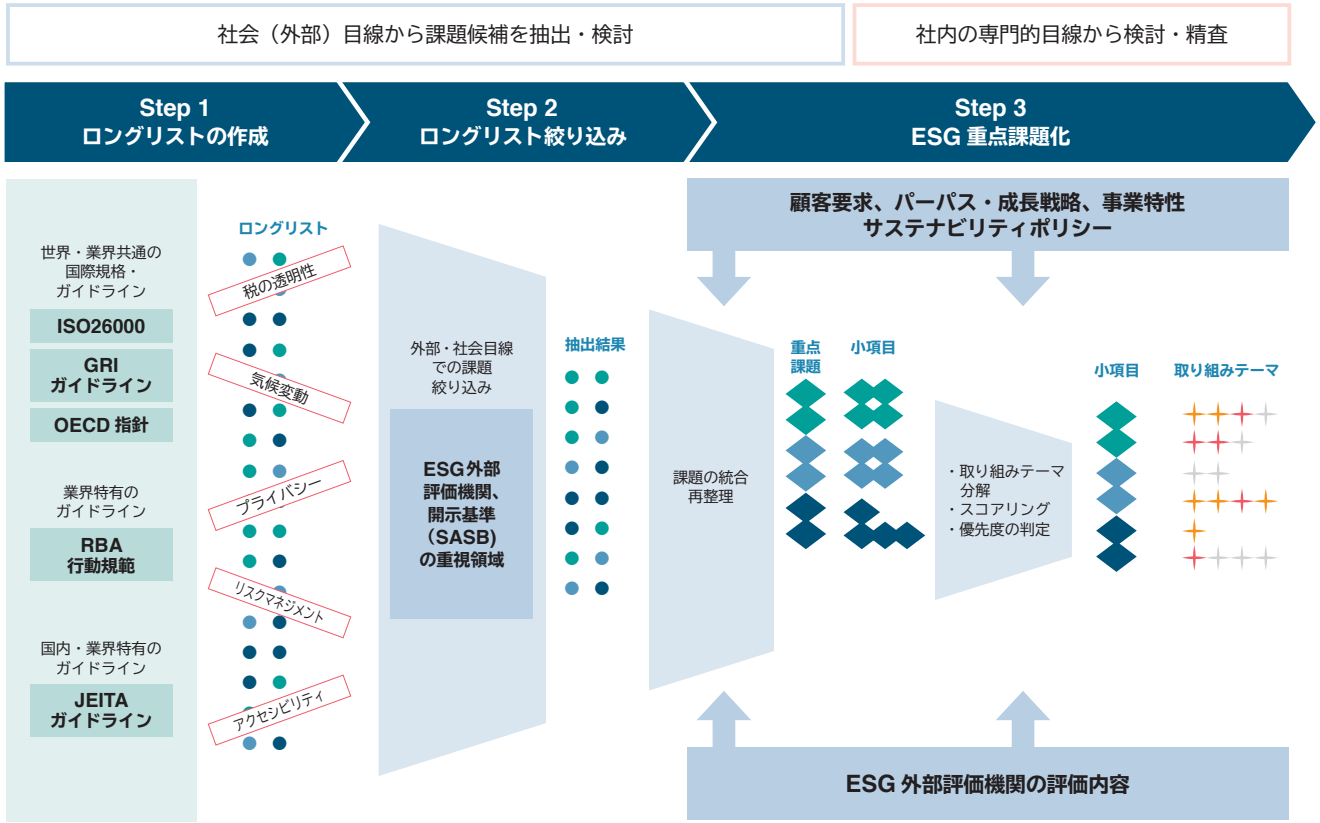
マテリアリティ　技術×人財

ESG重点課題の特定プロセス

ESG重点課題は、サステナビリティポリシーに基づき、外部不経済（社会課題）の解決を前提として、グローバル企業として国際的なルール・基準やガイドライン、各国の先進的なお客さまや外部評価機関からの要請、自社のパーパス・成長戦略との整合等を総合的に勘案し、中長期の目線で2024年に特定しました。

検討当初は42の課題を抽出したものの、前述の多角的な目線から検討を重ね、最終的に13の課題に絞り込みました。中期経営計画と同様に2028年度目線でのKPI/目標を経営層で決定し、その達成に向けた取り組みを開始、推進しています。

ESG重点課題 特定プロセス



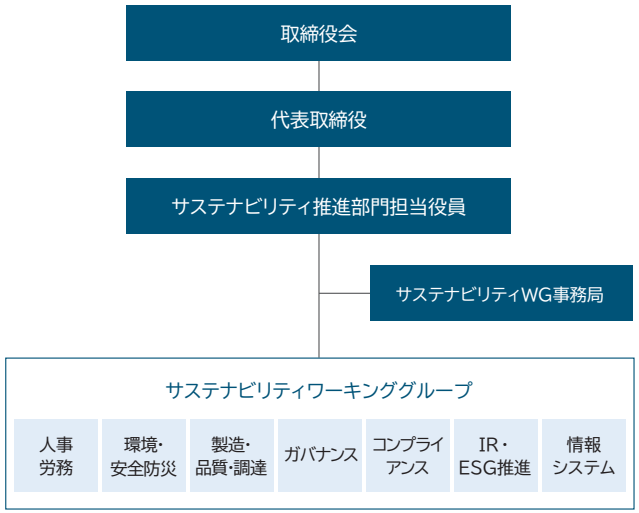
サステナビリティ推進体制

当社は、代表取締役を最高責任者として、サステナビリティ推進部門担当執行役員の指揮命令のもとに、当社らしいサステナビリティの取り組みを追求し、推進しています。

全社一丸となり活動を進めるべく、関係部署が参画する「サステナビリティワーキンググループ（WG）」を組織しています。外部講師を招いた社会の動きの確認や、自社のマテリアリティ（優先して取り組むべき重要課題）とESG重点課題ごとのKPI/目標達成に向けた活動の進捗状況などを部門横断的に議論しています。

なお、サステナビリティ推進に係る個別の重要な事項については、適宜、執行役員会、取締役会にて報告・議論のうえ、経営戦略、事業戦略の立案・遂行にフィードバックしています。

サステナビリティ推進体制



ESG重点課題

当社はデクセリアルズらしいサステナビリティを追求し、豊かで効率的な社会実現への貢献と持続的成長と企業価値の向上を目指しています。

ESG重点課題推進の基本的な考え方

（さらなる成長と企業価値向上に必要な、当社らしいESGの取り組み）

私たちデクセリアルズグループは、共存共栄を旨としたお取引先さまとの丁寧なコミュニケーションを実践し、外部不経済（社会課題）の解決を前提として、バリューチェーン全体で持続可能な社会実現への貢献に向け、「サステナビリティポリシー」を踏まえた以下の考え方のもとESG視点の中長期的な重点課題に取り組んでいきます。

- 私たちの製品の多くは、社会のニーズをとらえた高付加価値製品であり、それゆえ、シングルソースとなるものが多く、品質と安定的供給の維持が不可欠です。そのために、コンプライアンスの徹底や事業継続に関わる各種リスクへの対策（労働安全、品質、BCP、情報セキュリティ等）を講じ、潜在的財務リスクの低減とともに盤石な事業基盤を築いていきます。また、グローバル企業としての責任において、事業活動における環境負荷の低減やサーキュラーエコノミーを推進しつつ、スマートファクトリー化によるエネルギー利用効率向上と生産性の両立に取り組み、社会の脱炭素化にも貢献していきます。
- 私たちはグローバルで事業を展開しつつ、従業員一人ひとりの活力や挑戦機会を拡大していくために、すべてのステークホルダーの人権に対する配慮や多様な人材の活躍推進、そして人材の心身の健全性を担保する健康経営の取り組みを進めていきます。
- 経営トップはVUCA時代における経営の方向性を見定め、迅速・果断な意思決定（リスクテイク）を支える経営体制の維持・向上と、より実効性・透明性の高いコーポレート・ガバナンスの進化を実現し続けます。

ESG重点課題				課題と取り組み	改善ドライバー（FY24-28 KPI/目標）	参照ページ
E 環境	気候変動	サプライチェーン	CO_2排出量の削減	サプライチェーン排出量の削減	・CO_2排出量（Scope1,2）：FY19比 ▲38%（FY28） ・CO_2排出量（Scope3）：削減目標設定と削減実行	P.62 TCFD提言に基づく情報開示
		連結		スマートファクトリー化と省エネによるエネルギー効率と生産性の向上	エネルギー生産性（売上÷エネルギー使用量）：FY23比 1.5倍（FY28）	P.62 TCFD提言に基づく情報開示
	資源循環		資源循環	廃棄物の削減と資源の効率的利用	・廃棄物埋立率：0.5%以下 ・廃プラスチックのケミカルリサイクルの構築	P.61 資源循環
	汚染防止		環境インシデントの削減	環境保全に関する法規制の遵守	環境法規制違反件数： 0件（毎年度）	P.60 汚染防止

ESG重点課題				課題と取り組み	改善ドライバー（FY24-28 KPI/目標）	参照ページ
S 社会	多様性と人権尊重	連結	多様な人財の活躍推進と国際的な人権原則の遵守	【多様性】女性管理職比率向上（国内）	FY28 10%以上	P.69 ダイバーシティ
		サプライチェーン		【人権】人権方針による人権啓発と人権デューディリジェンスの推進		P.70 人権の尊重
	社員の健康と安全	連結	健康経営	社員が心身ともに健康で安全に働き続けられるための環境整備	FY30 ロードマップに基づく着実な改善	P.72 健康経営
			労働安全の強化		重大災害、設備起因災害：0件（毎年度）	P.73 労働安全
	製品品質		製品品質の維持・向上	良質で安心・安全なデクセリアルズグループ製品の提供	重大品質問題発生件数：0件（毎年度）	P.75 製品品質
G ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	単体	経営体制の維持・向上	取締役会のあるべき姿に向けたスキル・マトリクスの議論と経営層サクセッションの実行	①スキル・マトリクスの定期見直しとサクセッションプロセスの実行 ②スキル・マトリクスの議論とサクセッション計画のモニタリング	P.78 コーポレート・ガバナンス
			実効性・透明性の高いコーポレート・ガバナンスの進化	① 取締役会実効性評価の着実な実施と改善（毎年度） ② 役員報酬制度の透明性の高い決定プロセスの継続と報酬委員会による制度レビュー実行		P.78 コーポレート・ガバナンス
	コンプライアンス	連結	法令遵守・デクセリアルズ行動規範の浸透	贈収賄などの腐敗防止に関する違反を含む、重大な法令等の違反件数ゼロの堅持（毎年度）		P.88 コンプライアンス
				コンプライアンスに対する社員意識の向上	グループコンプライアンス意識調査スコア向上	P.88 コンプライアンス
	リスクへの対応	連結	情報セキュリティ強化	著しい環境変化に対応するリスクへの備え	重大セキュリティインシデント：0件（毎年度）	P.92 情報セキュリティの強化
			BCP強化		さまざまなリスクに対応可能なオールハザード型BCPの整備と運用	P.92 BCP（事業継続計画）の取り組み
	サプライチェーン		サプライチェーンマネジメント	調達先とともにサプライチェーン全体で地球環境や人権・労働などの社会的責任を遂行	CSR調達評価：平均3点以上	P.93 サプライチェーンマネジメント

旧マテリアリティに基づくCSR目標（KPI）の2023年実績
詳細はウェブサイトをご覧ください